

平成15年度第3回岡山市総合政策審議会保健・福祉部会における主要な意見

1 日 時 平成15年10月30日(木)15:00~16:30

2 場 所 ほっとプラザ大供3階第3研修室

3 出席者 別紙委員名簿参照(10名出席)

4 傍聴者 1名

5 会議の概要

岡山市子育てアクションプラン(仮称)について自由に意見をいただいた。

6 主要な意見

子育てを楽しくし、母親の子育て不安や孤立化を防ぐため、父親の子育て参加促進という観点を重視すべきである。

子どもの自主性、主体性を育てることが必要。

保育園入園前に、家庭教育や親の責任について保護者に学ばせてほしい。

乳幼児期の子育てが最も重要なので、保護者に強力な指導ができるよう、権限、専門性、人的配置を保育園に与えてほしい。

保育園の定員増には、近隣幼稚園の空き教室活用により対応してはどうか。

幼稚園や学校の空間、人材活用が大事。

預かり保育があれば、祖父母は孫育てを引き受けやすくなる。

児童クラブの充実。

気軽に子育て相談できる場の充実。

虐待防止ネットワークに人の配置が必要。

共稼ぎ、核家族化が進み家族の機能が弱体化している中で、出産・子育てが楽しくなるよう、本当にニーズのある、効果的な事業を重点的にするべき。

父と子、家族単位のプログラムをつくり、子どもがいたら楽しいという雰囲気をつくる。若い世代に子育ての楽しい体験を伝えていくセミナー等を開く。

出生前診断に際し、障害の知識、的確な情報伝達、相談できる仕組み、フォローアップを整えること。

障害のある子が障害のない子と同様に、個性的に生きていけるだけの支援の充実が必要。

コミュニケーション不足の解消、子どもの直接体験の場を増やすという課題に予算を多くとってほしい。

地域の子どもに注意したり叱ったりするには、まず日頃から人間関係をつくっておくことが必要である。

高齢者の力をいかし、地域の子育て支援ボランティアとして活動してもらうため組織づくりが必要。

地域の子育て支援の取り組みに対して、2年間、数万円でもいいから補助してはどうか。

小児医療充実。小児科の医師に、母親の立場に立って相談に乗ってもらいたい。

児童精神科も備えた子ども病院をつくってほしい。

健康保険の出産給付は、最初から給付してほしい。

子育てと仕事の両立には職場の理解、協力が欠かせない。

事業者への啓発の目標達成度について指標を示し、成果を発表、フォローしてほしい。

事業者に子育て支援を呼びかける前に、市役所自体が子育て中の職員を支援すべき。